

奨励賞を受賞して

城西大学薬学部
薬品物理化学研究室
江川祐哉

この度、シクロデキストリン学会奨励賞を受賞するという栄誉にあずかりました。謹んで、学会長の高橋圭子先生をはじめ、選考委員の皆様には厚くお礼申し上げます。また、本賞へのご推薦をいただきました山ノ井孝先生に深く感謝申し上げます。

シクロデキストリン (CD) 学会に入会したのは、2002年と記憶しています。その年のシンポジウム会場は千葉大学で、論文の著者としてお名前を拝見する有名な先生方がたくさん参加されていて、ご講演を拝聴したり、ポスターセッションでお話することができたりと、この様なありがたいシンポジウムは他にないと興奮していました。2004年の熊本での開催では、恩師である鈴木巖先生が奨励賞を受賞され、私が学生時代に携わった研究がスライドに映ったことに感激していました。その当時、私は製薬企業に勤めており、自身で学会の発表をすることは難しい状況で、鈴木先生の受賞を誇らしく思いつつ、このような輝かしい賞は自分には無縁なものと感じていました。

会社では製剤研究に従事していましたが、ひよんなきっかけからご縁をいただき、会社が休みの日に城西大学で実験をし、博士号取得を目指すことになりました。その時お世話になった薬剤学教室の従二和彦先生からは「好きな研究をやりなさい」と言っていただきました。新しい研究テーマを探すため、製剤学、薬剤学と幅広く論文を読みましたが、心惹かれるのは学生時代に研究していた CD でした。本学会の先生方の素晴らしい論文を、まるで通信教育のテキストようにして、CDの研究を始めることとしました。通信教育でお便りをくださっていた憧れの先生方に、直接会えるということで、シンポジウムでは人一倍興奮していたというわけです。

城西大学での研究成果がまとまりつつあった2005年、母校の東北大学大学院薬学研究科、安斉順一先生よりお声掛けいただき、助手として大学に戻りました。学位を無事取得した後、CDの研究はお休みして、ボロン酸による糖化学センサーの研究を行いました。2008年には、再びご縁をいただき、城西大学薬学部に着任することになりました。上司となった関俊暢先生からも「好きな研究をやりなさい」と言っていただき、CDの研究を再開することとしました。本学会の先生方の素晴らしい研究からインスピレーションを受け、東北大での研究と組み合わせ、今回の受賞対象となった「インスリンデリバリーシステムを指

向したボロン酸修飾シクロデキストリンによる糖応答性超分子構造」の研究を進めることができました。

鈴木巖先生と同じ熊本の地で奨励賞を受賞し、かねてより尊敬する先生方の前で名前を呼んでいただけたことが、今でも夢のようです。改めまして、本学会を通してお世話になった先生方、共同研究をお願いしている埼玉大学の石丸雄大先生、東海大学の小田慶喜先生、直接ご指導いただいた安斉先生、鈴木先生、城西大学で研究の機会を与えてくださった従二先生、関先生、城西大学でお世話になっている山ノ井先生、井上裕先生、三木涼太郎先生、今回の受賞対象の研究を精力的に進めてくれた関智宏君、中村公薫君、阿部圭吾君、並木美仁さん、城西大学の多くの卒業生、在学生に心から感謝申し上げます。これからも、CDが思いがけない相互作用を私にもたらしてくれると信じ、研究に邁進していく所存です。